## モリーの愛情

葉 悠

杏

前にシートン動物記のロボを読んだので、同じシリーズのほ わたしがこの本を読もうと思ったきっかけは、図書館です。 弘前市立豊田小学校 千

ギとそのお母さん、モリーが書かれています。森の中でこの サギを観察したものです。ラグと名づけたオスのワタオウサ 親子は命がけの日々をすごしていきます。 この本は、アメリカの動物学者のシートンさんがワタオウ かの動物も読んでみたいと思いました。

す。動かなければ、てきからいないものと思われるそうです。 もあると書いていましたが、その中で私がとくに気になった こわいじょうきょうで、よくじっとできるなと思いました。 ンさんは、モリーからラグへつたえられた知恵とわざは何百 に、てきから身を守る方法を教えているところです。シート のは二つです。一つめは、"じっとふせて声をださない"で この本を読んですごいなと思ったところは、モリーがラグ

> ていて、すごいなと思いました。 中で生きていくために、ウサギはいろいろなわざを身につけ えれば、てきににおいを追われないですむそうです。自然の 二つめは、、ジグザグ、です。急角度で次々に走る方向を変

ました。 ぎせいにして子どもをすくったモリーの深い愛情が感じられ グは助かりましたが、モリーは死んでしまいました。自分を とびこんでキツネの注意をひき、ラグをにがしたのです。ラ キツネに食べられそうになったとき、モリーがつめたい池に また、モリーがラグを助けるところがとても感動的でした。

の子どもにいろいろなことを教え、まわりのお友達や家族を 大切にしていきたいと思いました。 この本を読んで、大きくなったら私もモリーのように自分